

令和6年度開校 特認校候補校への説明及びアンケート実施について(報告)

小規模特認校として指定している伊久美小学校が統合されることに伴い、特認校実施の候補校である川根小学校と大津小学校に対して、候補校となった経緯や今後の予定について説明し、自校で特認校を開校することについて、保護者向けアンケートを実施した。また、現在小規模特認校を利用している保護者を含めた伊久美小学校保護者に、令和6年度からの学校選択について説明し、現時点でどのように考えているかアンケートを実施した。

1 地域（学校運営協議会等）への説明

川根小学校 令和3年12月2日 参加者 学校運営協議会委員

大津小学校 令和3年12月2日 参加者 学校運営協議会委員、町内会長、PTA 本部役員

両校とも、地区の児童数の減少を危惧しており、地域の活性化や相乗効果が期待できることも考え、受入れについては賛成という意見が多かった。また、支援員の増員や、登下校の交通手段について配慮が必要という意見があった。

2 保護者への説明会

川根小学校 令和3年12月 8日 参加者 6人

大津小学校 令和3年12月 15日 参加者 15人

地域への説明時とほぼ同様の意見であったが、両校ともあまり周知されていない制度であることから、現在特認校を利用している児童が選択した理由や、効果について詳しい説明を求められた。登下校について交通手段が少ないことや、登校時間について、利用する保護者や教員にも負担が生じることも意見が出された。

3 保護者説明会の後、全保護者にアンケート実施

川根小学校	PTA 会員	118人	回収	102人	回収率	86%
	自校での開設について		賛成			73人
			反対			3人
			判断に迷う			26人

大津小学校	PTA 会員	158人	回収	123人	回収率	78%
	自校での開設について		賛成			79人
			反対			5人
			判断に迷う			39人

《自校での開設に賛成の理由》

- 通学について選択肢が増える。
- 地域の子供は今後も減少するため、自校存続の意味でも他地域からの受け入れは賛成。
- 空き教室も有効に利用できると思う。

- 他地域からの交流により、地域の良い環境を感じ広めてもらうことが期待できる。
- 地域の良さを子供達が実感し、再認識できる。
- 他地域の児童生徒と接することで新たな人間関係や視野の広がりが期待できる。
- 特色ある活動や地域の行事等、今後も継続できる。
- 自然の豊かさと地域の方との交流が広がれば活性化にもつながる。

《自校での開設に反対の理由》

- 職員が足りず、特認校を選択し、通学してくる子供や保護者へのニーズに答えられないと感じる。
- 通学に時間がかかり、子供や保護者への負担が考えられる。
- 通学上の事故や防犯について不安がある。
- 少人数でも地域の子供だけで学校生活を過ごしたい。
- 伊久美小学校のような学校は他にはない。
- 個に応じた指導、支援が継続できないと感じる。
- 登校時間が早すぎ、教員の負担にもなる。

《判断に迷う理由》

- 制度を利用する側のメリットは理解できるが、自校が特認校になるメリットは感じられない。
- 制度を利用していない。制度自体不明確であり、詳しい説明がほしい。
- 通学距離が遠く、登下校に時間がかかる。
- 比較的小規模校である2校が選ばれたとのことだが、小規模校とは言い難い。
- 特認校の主旨を理解しないで、逃げ場として転校してくることが心配。
- 人数が増えることによって個に応じた支援や指導ができなくなるのではないか。
- 特認校を利用している側の意見が分からないので判断できない。
- 今の環境が変わることへの不安がある。

《特認校決定についての意見、要望》

- コミュニティバスの利用について、子供が安心して乗れるように配慮してほしい。
- 特認校を指定するのではなく、自由に通える学校を選べる制度がほしい。
- 伊久美小学校の廃校を撤廃し、特認校とすればよい。
- 公共交通機関が少なく登校時間だけでも増便するべき。
- 通学費用について、保護者が負担にならないようにしてほしい。
- コミュニティバスではなく、スクールバスを導入し、安全な通学路の確保が必要。
- 高学年であれば自転車での通学も許可した方がよい。
- 他地域からの受け入れで、自校の子に目が行き届かなくなるようなことはあってはならない。
- 他地域から入学や転校してくる判断基準を明確にする必要がある。

- ・メリットやデメリット等、現利用者の意見を参考にすべき。
- ・受け入れる人数によっては教員や支援員の増員を希望する。
- ・決定後は、受け入れる側の児童が不安にならないよう説明が必要。
- ・未就学児の保護者を含め、学校や地域住民に十分な説明と理解を求める必要がある。

4 伊久美小学校への保護者説明会

令和3年11月13日 学校参観会の前に全保護者を対象に実施

特認校実施校の候補である川根小学校と大津小学校が選ばれた経緯や、今後の予定について説明し、伊久美小学校が統合した後の学校選択について説明を行った。また、現時点でどのように選択を考えているかアンケートを実施することも併せて依頼した。

5 保護者説明会の後、全保護者にアンケート実施

PTA 会員 27人 回収 27人 回収率 100%

《特認校について》

川根小学校が適当 7人

大津小学校が適当 6人

判断に迷う 14人

《川根小学校を選んだ理由》

- ・小規模校であり個に応じた指導、支援が期待できる。
- ・自然が豊かである。
- ・伊久美小学校の環境に近い。

《大津小学校を選んだ理由》

- ・通える距離にある。
- ・特色ある活動に魅力を感じる。

《判断に迷う》

- ・どちらの学校も自然が多く、地域との交流活動や特色ある教育活動を実施していて判断に迷う。
- ・伊久美小学校のような規模や環境を望むから。
- ・どちらも通学距離に不安を感じる。
- ・どちらも特認校として設定し、選択できるようになると良い。
- ・特認校を希望する方のそれぞれの思いがあるので判断できない。
- ・公共交通機関を利用すると時間が合わないのではないか。

《特認校利用者限定：特認校決定後令和6年度の進路》

利用する 0人

統合後の島田第一小学校へ行く 3人

住所のある学区の小学校へ行く 1人

まだ、決めていない 5人

《特認校決定について意見、要望》

- 児童生徒の多様性を踏まえ、選択肢を増やすために複数校特認校としてはどうか。
- 両校とも伊久美小学校のような環境ではないため、廃校を撤廃して特認校としたらどうか。
- 地域の支援や自然を生かした活動や個に応じた支援や指導を継続してほしい。
- 特認校の受入れ校の児童に負担がかからないようにする配慮が必要。
- 誰でも選択できることは大切だと思うが利用基準を明確にすべき。

説明会やアンケートを実施した結果から、川根小学校、大津小学校共に自校での受入れについては、人の交流や増加により、学校の存続や地域の活性化を期待し、賛成との意見が多かった。ただし、通学距離が長いことや、公共交通機関が充実していない等の課題がある。

特認校を決定するにあたり、地域の方との交流活動や特色ある教育活動を、今後も継続してほしいという意見が多い。また、個に応じた支援や指導を今後も期待していることから、特認校の利用者人数によっては、市内学校のバランスを考え、支援員の配置など、引き続き検討していくことが課題である。

伊久美小学校の小規模特認校を利用している保護者への令和6年度の学校選択についてのアンケートは、現時点では学齢が低く、特認校利用自体を含め決めかねているという意見が多かった。